平成１８年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：ムギ（網斑病・斑葉病・うどんこ病・赤かび病）

平成19年 3月 6日
鳥取県病害虫防除所

1　発生状況（３月３日現在）

（網斑病）
　網斑病の発生ほ場率は55.6%であり、昨年12月の調査時（発生ほ場率：11.1%）に比較して、発生が拡大している。
　発生ほ場では、坪状の発生が主体であり、平均発病茎率は7.0%であるが、大半のほ場で上位葉への病斑進展が認められている。

（斑葉病）
　発生ほ場率は11.1%（平年24.8%）と平年に比較して少ない発生となっている。

（うどんこ病）
　平年では、この時期における発生はほとんど見られないが、本年は発生ほ場率22.2%と、早くから発生が認められている。
　なお、現時点での発生は下位葉のみであり、坪状の発生となっている。

2　今後の予想

（気象予報）
　気象予報によると、向こう１ヶ月の気温、降水量ともに、高い確率４０%、平年並の確率３０%と予想されている。

（網斑病）
　今後、発生に好適な気象条件となることが予想されることから、発生増加が懸念される。

（斑葉病）
　本病は２次伝染はしないため、今後の発生増加はない。

（うどんこ病）
　初発生が平年に比較して早いことから、今後の発生増加に注意が必要である。

（赤かび病）
　本病は、出穂期以降の高温多雨により発生が助長される。本年は、出穂が早まることが予想されることから、出穂期以降は平年より低温で推移すると予想される。したがって、本病の発生は、平年より少なくなると予想される。ただし、出穂期以降の天候次第では注意が必要である。

3　防除上注意すべき事項

（網斑病）

ア　発生ほ場では、出穂期～穂揃い期にチルト乳剤２５（１，０００倍液、使用液量６０～１５０リットル／１０ａ）を用いて防除を行う。

イ　本病は種子伝染するため、発病ほ場から採種しない。

（斑葉病）

ア　本病は種子伝染するため、発病ほ場から採種しない。

（うどんこ病）

ア　葉色が濃く、過繁茂のほ場では多発の恐れがあるので注意する。

イ　主要農作物病害虫防除指針等を参考にして、発病初期に防除を行う。

（赤かび病）

ア　本県では近年発生が目立ってきているので注意する。また、赤かび病に対する検査基準が厳しくなっていることから、防除を徹底する。

イ　特に六条オオムギは、二条オオムギに比べて本病が発生しやすいので注意する。

ウ　発生後の防除は困難なため、予防防除を基本とする。六条オオムギでは穂揃い期およびその７～１０日後、二条オオムギでは穂揃い期に薬剤防除を行う。

エ　防除薬剤は、トップジンM粉剤（４ｋｇ／１０ａ）、トップジンM水和剤（１，０００～１，５００倍液）、チルト乳剤２５（１，０００～２，０００倍液、使用液量６０～１５０リットル／１０ａ）等を使用する。

オオムギ病害の発生状況調査結果（平成19年3月3日調査）

調査地点	網斑病 発生ほ場率(%)	網斑病 発生ほ場における発病茎率(%)	斑葉病 発生ほ場率(%)	うどんこ病 発生ほ場率(%)
倉吉市(中江、新田) 北栄町(江北)	55.6	7.0	11.1	22.2

注)　発生ほ場率は、倉吉市、北栄町の９ほ場での発生率。発病茎率は、倉吉市の５ほ場の平均値。